

# AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報 第21号

## Contents:

旧ブリティッシュ・ライブラリの思い出

これが本だ！

オンラインジャーナル提供開始

学園都市の大学図書館の利用について

Information

編集後記

## 旧ブリティッシュ・ライブラリの思い出

光永 雅明

私が最初にイギリスに行ったのは 1984 年。もう二十年も前のことになる。当時私は、イングランド北部のシェフィールド大学で社会史・経済史を勉強していた。しばらくはシェフィールド生活が続いたのだが、やがて、修士論文の資料調査のために、ロンドンのブリティッシュ・ライブラリ British Library (大英図書館) に行くことになった。

無論、ブリティッシュ・ライブラリについては、それが(紛らわしくも) British Museum (大英博物館) 内にあることを初めとして、一応の予備知識は得ていた。だが、大変お恥ずかしい話だが、私はブリティッシュ・ライブラリと、British Library of Political and Economic Science 私はここへの資料調査も考えていた を混同していた。両者に組織的な関係は無く、地理的な隣接関係も無いことは、ロンドン訪問の直前になってやっと気づいた(ちなみに British Library of Political and Economic Science は London School of Economics and Political Science の図書館である)。それだけに、ようやくブリティッシュ・ライブラリにたどり着き、図書館員の方から懇切丁寧に利用法を教えていただいた時には、本当に嬉しさと期待に胸がふくらんだものである。

そしてこの期待を、ブリティッシュ・ライブラリは一度も裏切らなかった。その後、仕事柄、何度も足を運んだが、英語が覚束かず、利用法になお不案内な私をブリティッシュ・ライブラリはつねに温かく受け入れてくれた。なるほど、完全閉架式の図書館であるだけに、資料を取り寄せるまでに多少の手間はかかった。まず（コンピューターが本格的に導入される以前は）閲覧室中央の著者名順のカタログを手取る。一冊一冊が、写真アルバムを三つ束ねたような分厚いものである。そこから資料請求記号を申請用紙に書き写し、窓口のボックスに放り込む。あとは、ひたすら待つしかない。半時間で来る資料もある。資料の種類や請求日によっては、数日かかる場合もある。だが忍耐強く待てば、それは必ずやってきた。どんな資料でも（本当に、日本では見られないどんな資料でも）魔法のように、いつかは自分の机に届いた。あとは読むだけだった。そして、乳白色のドーム天井に覆われた閲覧室で資料を読むときにはいつも、利用者が例のカタログを開け閉めする軽い音が頭上でこだましていた。

だがそんなブリティッシュ・ライブラリも、大英博物館から離れる時が来る。ロンドンのセント・パンクラスに完成した新しい建物（正式開館は 1998 年）へと、全面移転してしまうのである。無論、私はこの新ブリティッシュ・ライブラリも利用し、相変わらずの深い満足感も得ている。だが、あの旧ブリティッシュ・ライブラリが無くなったことに、いくらかの寂しさを覚えてしまうのも事実である。

一度だけ、大英博物館に行き、かつて閲覧室があった場所を訪れたことがある。そこは閲覧室の原形を保持しつつも、観光客が自由にアクセスできる博物館図書室に生まれ変わっていた。かつてよく利用したあたりの座席に腰を下ろしてみたが、あの場所に戻ったのだという感覚はもはや取り戻せなかった。乳白色のドームはそのままだった。しかしそこに響くのは、カタログを開け閉めする音ではなく、旧閲覧室に足を踏み入れた老若男女の楽しそうな声だけとなっていた。

(本学助教授)



「これがタンゴだ！」・・・昭和30年代前半の当時、週一回、民放ラジオから流れたタンゴの名曲・名演の番組である。血が沸く鮮烈のリズムと哀愁の旋律の虜になり、日夜、聴き続けても飽きることはなかった。この番組名が気に入って、いかにもそのものらしさを大げさに備えているものを見かけては、それを称して、たとえば「これが靴だ！」とか「これが鞆だ！」とか言って喜んだものだった。若かったころのおとなげない一幕である。数十年の時を経て、今は外大の図書館に勤めて五年になるが、今になってもなお、時々この言い回しを懐かしんで使うことがあり、ひとり悦にいつている。

私は図書館での仕事のひとつとして傷んだ本の補修をしている。時には中身をばらして、一から糸綴じの製本に挑戦することもある。製本の技術はというと、図書館に置かれている柄折久美子著『手製本を楽しむ』から学んだ。折り紙遊びの本でも同じ思いをしたことがあるが、本文と挿絵とを見比べながら読み返しても、なお理解するのは難しい。



補修中の『マルコム X 自伝』(請求記号:N289.3=201)

目の前で見本を示されながら手ほどきを

受けたなら、もっと楽に理解できるのになあと思いながら、数冊の本で試行錯誤を重ねた。こうして「パピヨン」や「一本パピヨン」と呼ばれる糸かがりの方法を自分流に理解して、何とか製本の基礎を身につけることができた。

それにしても、どうしてこんなに本が傷むのか。きっちりと糸かがりされ、厚手の表紙で包まれた頑丈なはずの辞典がまだ新しいのに、中身が表紙と完全に分離したり、厚さの半分あたりで真二つに割れたりしていることがある。普通に丁寧に扱っておれば、決して起こりえない傷みである。実際はどのようにして傷んだのか不思議なことだ。利用者の本を思いやる心さえあれば、かなりの数の傷みは予防できるのになあと思いながら、修復にあたるのが常である。

本の傷みは取り扱いの荒さだけではなく、製本の仕方にも原因がある。いわゆる無線綴じの本である。その中でもペーパーバックといわれる本は、薄い紙表紙に中身が糊付けされているだけなので、利用頻度に応じて表紙が破けたり、擦り切れたり、本体から剥がれたりする。さらに、利用頻度にかかわらず、致命的な損傷を及ぼすのが糊自体の経年劣化である。一枚また一枚とページが剥がれ落ちていき、止まるところを知らない。ひどくなると、ただ

本を開くだけでも糊がひび割れ、同時に中身もいくつかに割れてしまうものもある。利用に供せなくなったそれらの本は、補修か、廃棄か、そのまま保存かの、いずれかの決定を受ける。補修と決まれば、傷みに応じた措置を施すことになる。

ところで、私が好む補修対象の本は、糸綴じ、無線綴じは問わないが、利用頻度が高く、瀕死の重傷で大手術を要するというような本である。それも出版されて半世紀以上経ち、用紙は変色し、表紙の生地も、かがり糸も、見返しも擦り切れ、利用するには耐え難くなった本。私はこういう本にこそ食指が動く。そんな本に新たな息吹を与え、これから先の何年間も利用に供しうる頑丈で見やすい本に回生させるのが楽しみなのだ。つまり補修の中でも一番の楽しみは、一から再製本を行うことにある。

中身だけを表紙から剥し、背の部分を固めてあった糊と、かがってあった糸をすべて丁寧に取り除く。16ページごとに折り重ねられている折り丁のすべてを一枚一枚開いて、折りの部分を薄い和紙で補強する。次に480ページの本ならば30の折り丁を一から細い麻糸でかがっていく。私の場合、本で学んだ一本パピヨンというかがり方だ。仮に傷んだ本が無線綴じの本でも、一定の手続きをして糸綴じ製本に替えてしまう。

こうして時間をかけ、かがり終えた時には、中身だけであっても、やがて完成した時の本を想像させるに十分な形をなしている。補強した薄い和紙の重なりと、かがり糸が芯になって、背中部分の方が実際の本の厚さ（束）よりもかなり分厚くなっている。おもしろいことに、束より厚い分は自然と外に逃れて、中身自身が丸い背を形作ってしまう。このあと丸い背中を糊で固め、見返しをつけるなど一連の工程を経て、別に用意したクロスの表紙でくるめば、「これが本だ！」といえる本の出来上がりだ。



補修後の『北京語対照廣東語研究』(請求記号:N828.4=17)

なぜ「これが本だ！」と言えるのか。上から見た丸い背の形が市販本では目にできない半円ほどの円弧をなし、背と向き合った小口も、やはり半円近くの放物線をなして凹んでいるからだ。つまり、本の形としては大げさな形なのだ。この丸みの深さについては、絶対的な基準は無いだろうし、人それぞれの好みによって評価が分かれるだろうが、丈夫で開きやすく読みやすい本、「これが本だ！」と、ひとり悦にしている次第である。

(図書館嘱託職員)

## オンラインジャーナル提供開始

2004年10月より、洋雑誌のオンライン版が利用可能になりました。学内LANに接続する端末からアクセスできます(学外からはアクセスできません)。図書館で購入中のタイトルで無料オンライン版を公開しているものを提供しています。現在、62タイトルにアクセス可能です(下記リスト参照)。図書館HPの「オンラインジャーナル(学内のみ)」(<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/oj/ojnavi.html>)にアクセスすると利用可能なタイトルリストがご覧になれます(各誌のURLにリンクしています)。また、「記事検索のページ」(<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/oj/ojsearch.html>)に掲載の"ingenta"、"CALIBER"、"Science Direct Web Edition"を利用すると、洋雑誌の掲載論文を探すことができます。利用上の注意は次の2点です。全ての洋雑誌を網羅しているわけではありません。記事検索をすると無料購読対象外の論文もヒットします。無料購読対象外の論文については抄録までは無料でご覧になれますが、本文(Full Text)は開かないで下さい。必要な場合は文献複写を申し込んで下さい。

(永井)

### <提供タイトルリスト>

- |  |   |  |
|--|---|--|
| • Agricultural History                             | • International Political Science Review    | • Kyklos   |
| • American Literature                              | • International Security                    | • Language in Society                                  |
| • American Political Science Review                | • IRAL                                      | • Language Teaching                                    |
| • American Speech                                  | • Journal of British Studies                | • Language Variation and Change                        |
| • Asian Survey                                     | • Journal of Economic History               | • Lingua   |
| • British Journal of Sociology                     | • Journal of Economic Theory                | • Main Economic Indicators                             |
| • Cambridge Law Journal                            | • Journal of Experimental Social Psychology | • Nineteenth Century Literature                        |
| • China Quarterly                                  | • Journal of Historical Geography           | • OECD Economic Outlook                                |
| • Critical Inquiry                                 | • Journal of Industrial Economics           | • OECD Economic Studies                                |
| • Economic History Review                          | • Journal of International Economics        | • OECD Economic Survey                                 |
| • Economic Journal                                 | • Journal of Latin American Studies         | • Orbis  |
| • Economic Surveys                                 | • Journal of Law and Economics              | • Pacific Historical Review                            |
| • Economica  | • Journal of Linguistics                    | • Political Theory                                     |
| • English Today                                    | • Journal of Memory and Language            | • Progress in Human Geography                          |
| • Geographical Journal                             | • Journal of Modern African Studies         | • PS : Political Science & Politics                    |
| • International Journal of American Linguistics    | • Journal of Modern History                 | • Review of Economic Studies                           |
| • International Journal of Industrial Organization | • Journal of Monetary Economics             | • Social Psychology Quarterly                          |
| • International Journal of Middle East Studies     | • Journal of Phonetics                      | • Sociology  |
| • International Organization                       | • Journal of Pragmatics                     | • Studies in Language                                  |
|  | • Journal of Public Economics               | • TESOL Quarterly                                      |
|  | • Journal of Southeast Asian Studies        | • T'oung Pao   |
|  | • Journal of World Business                 | • Transactions of the Institute of British Geographers |

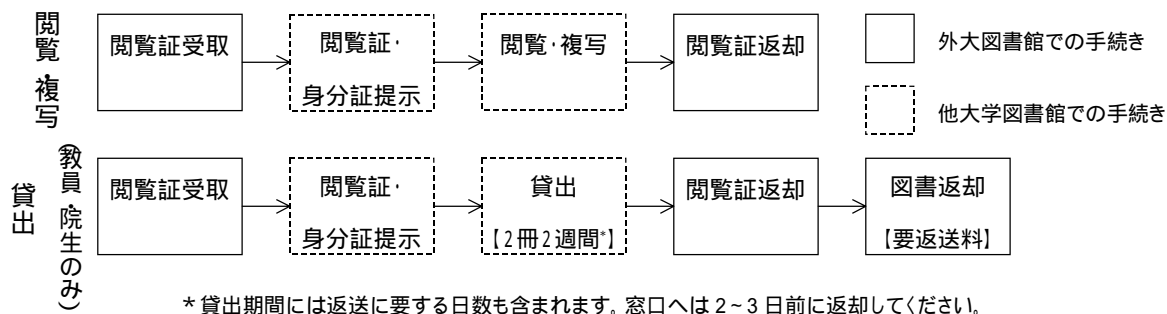
外大図書館にない資料を利用する方法のひとつに、他大学の図書館を直接訪問して閲覧・複写する方法があります。他大学の図書館を利用するには、身分証(学生証・職員証)と図書館発行の紹介状が必要です。通常、外大図書館を通じて資料が利用可能か否か事前に照会し、訪問先からの回答後に紹介状を発行します。

ただし、必要な資料が学園都市周辺の大学・高専の図書館(神戸研究学園都市大学連絡協議会加盟大学の図書館。以下参照)にある場合は、身分証と下記の大学間で利用できる「神戸研究学園都市大学連絡協議会図書館間教職員・大学院生共通閲覧証」(以下、共通閲覧証)で図書館を利用することができます。共通閲覧証は紹介状の代わりになるもので、即日発行が可能です。事前照会なしに訪問することもできます(ただし、この場合、貸出中などの理由で必要な資料が利用できないことがあります。確実に資料を利用するには事前の照会をお勧めします。窓口にご相談ください)。

共通閲覧証の利用は、昨年度まで教員と院生に限られていました。しかし、今年度から試行的に利用対象を拡大し、学部生も利用できるようになりました。学部生は閲覧・複写が、教員および院生は閲覧・複写・図書の貸出が可能です。

利用の流れは以下のとおりです。共通閲覧証は外大図書館の窓口でお渡しします。訪問先の窓口で身分証と閲覧証を提示した上でご利用ください。利用が済んだら、すみやかに閲覧証を返却してください。なお、共通閲覧証で借りた図書は、必ず外大図書館の窓口に戻却してください。その際、返送料を実費で負担していただきます(支払い方法は切手。料金は返却時にお知らせします)。共通閲覧証の利用について不明な点があればお気軽に窓口にお尋ねください。(飯島)

### 学園都市共通閲覧証 利用の流れ



#### 共通閲覧証で図書館を利用できる大学

兵庫県立大学(学園都市学術情報館・明石学術情報館)・神戸芸術工科大学  
流通科学大学・神戸市立工業高等専門学校・神戸市看護大学・神戸国際大学

## INFORMATION

### 視聴覚ライブラリーより

#### 冬季休業中の開館時間

冬季休業中の開室日・開室時間は次のとおりです。

開室	12/14(火) - 27(月)	9:30 - 12:30
	1/5(水)	13:30 - 16:30
閉室	12/28(火) - 1/4(火)	
	土・日曜日、祝日	

### 図書館より

#### 冬季休業中の開館時間

冬季休業中の開館日程は次のとおりです。詳しくは、図書館ホームページ、図書館内掲示板の開館カレンダーをご覧ください。また、カウンターには配布用のカレンダーを用意しています。

開館	12/14(火) - 21(火) 【集中講義期間】	9:00 - 19:30
	12/22(水) - 27(月) 1/5(水)	9:00 - 16:30
	12/16(木) 【館内整理日】	17:00 - 19:30
閉館	12/28(火) - 1/4(火)	
	土・日曜日、祝日	

### 冬季休業中の長期貸出

冬季休業に伴い長期貸出を行います。

実施期間： 12/8(水) - 27(月)

返却期限： 1/12(水)

貸出冊数：

1・2年生 科目等履修生 卒業生	7冊
3・4年生	10冊
院生 研究生	20冊

\* 院生・研究生の12/15(水)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。

### ILL 申込用紙がダウンロードできます

ILL(現物貸借・文献複写)の申込用紙をインターネットからダウンロードできるようになりました。図書館ホームページからPDFファイルで入手できます。どうぞご利用ください。なお、記入した申込用紙は、必ず外大図書館のカウンターに提出してください(他の図書館に直接申し込むことはできません。電話・FAX・e-mailによる申し込みは受け付けておりません)。

### 「ご存知ですか？」シリーズ最新版

リーフレット「ご存知ですか？」最新のタイトルは以下の3点です。テーマで図書を探したいとき、外大図書館にない資料を利用したいときにお役立てください。閲覧室入口のパンフレットスタンドにあります。

- ・OPAC 検索のコツ (テーマで探す方法)
- ・特定のテーマに関する図書の探し方
- ・相互利用(他の図書館の資料の利用方法)

## 編集後記

「図書館学」が「図書館情報学」に変わっても、書物が情報に還元されてしまわないことは、書物が独立した存在として人びとをとらえてやまない不思議な魅力を持っているからですが、その大きな魅力のうちの一つが製本という、技術が単なる技術を越えて美術の領域にまで踏み込んでしまう力にあることは間違いありません。

光永先生が書かれている大英図書館にある国王ジョージ3世の龐大な蔵書（キングス・ライブラリー）にはサミュエル・ジョンソン博士が賞賛した、最も美しい書物たちのコレクションがあることをご存じの方も多いことでしょう。

また、ロンドンで亡命生活を余儀なくされていたカール・マルクスが『資本論』の執筆に専念したのも、このキングス・ライブラリーのために、1857年に新たに増築されて開室したドーム型の閲覧室でした。

そして、今や神話的人物となっている南方熊楠が、積年東洋人として軽侮を受けた事を憤慨して白人を殴打したのも大英博物館書籍室、1897（明治30）年のことです。

ところで、今回の館報にはオンラインジャーナルの提供開始について紹介されています。大学図書館では既に当たり前のように使われている洋雑誌のオンライン版ですが、一度使っていただければ分かりますが、従来の紙媒体のものと違って多くの長所があります。

マルクスや熊楠がもしデジタルネットワーク全盛の現在に生きていたら、こうした新しいリソースを使ってどのようなすばらしい著作を書き上げたのだろうかなどと想像してみるのも楽しいことではないでしょうか。

編集責任者：図書館事務長 牛原秀治

AD ALTIORA SEMPER No.21 = 神戸市外国語大学図書館報

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学図書館

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257

E-MAIL: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

URL: <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2004年11月30日発行

発行責任者：図書館長 佐藤晴彦